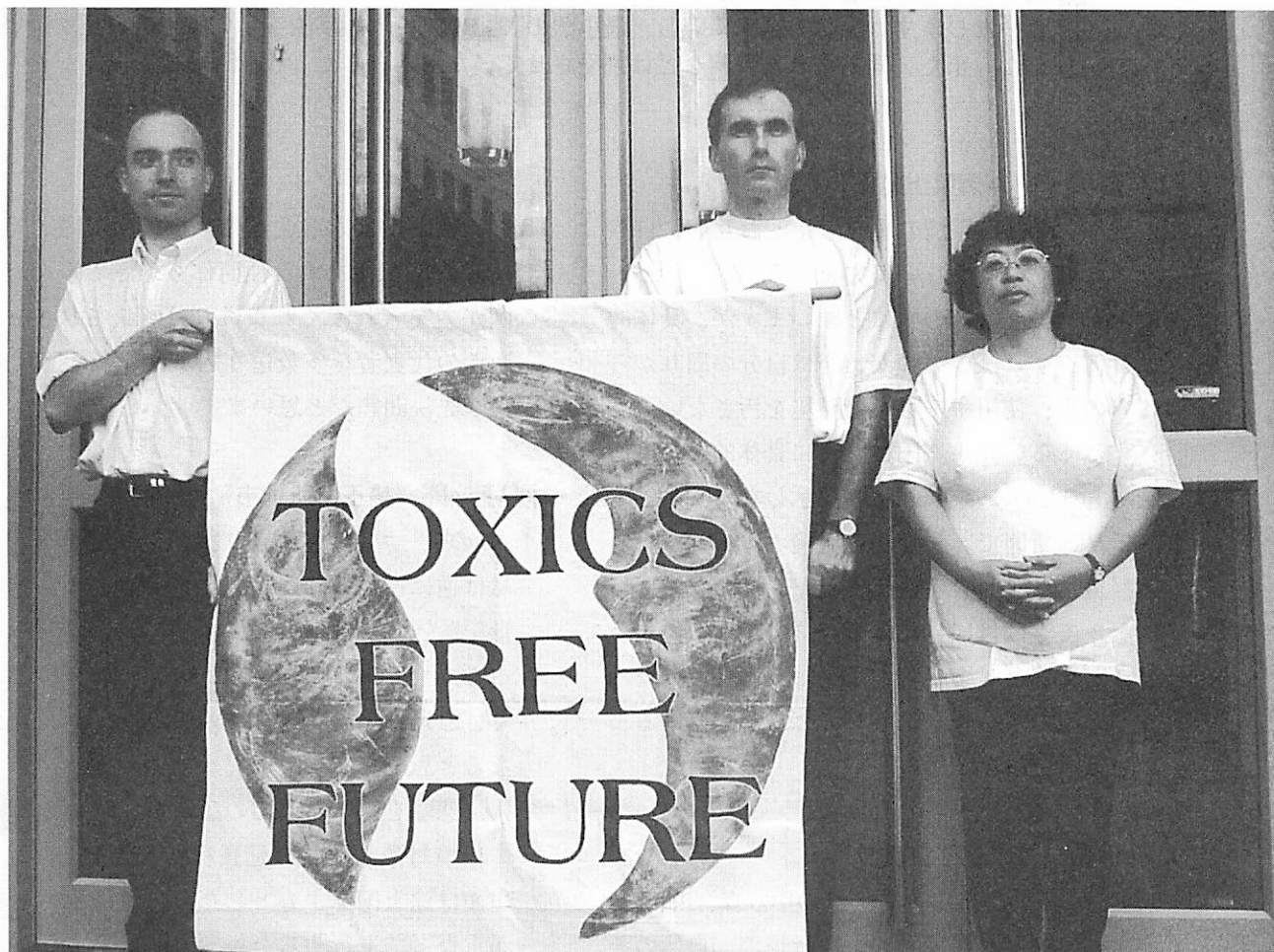


ニュース・レター

NEWS LETTER
Jan.31 2001

vol.

9



PCB、DDTなどの有害物質を規制するPOPs条約の第5回政府間交渉が南アフリカのヨハネスブルグで行われた。交渉が大詰めを迎えた昨年12月7日の朝、NGOの国際的ネットワークであるIPENに参加する女性たちが、会場の入り口で実効性の高い条約案を求め、静かな抗議を行った。女性達は妊婦を模して、白い張子のお腹を抱え、無言でやってくる政府代表を見つめる。無言なのは、生物やお腹の中の将来の子どもたちは声をあげることができないことを象徴しているからだ。JPENからも4名の女性がパフォーマンスに参加した。皆で「Toxic Free Future（毒物のない未来）」の実現を切に祈った。右端に立つのは中下事務局長。

CONTENTS

- ② 会員アンケート「21世紀へ会員の夢」
- ⑪ 広報委員会・皆さまの声に应运て……
- ⑫ 川名 英之・環境省の発足と山積する課題
- ⑭ 環境省の新たな取り組み——太田義武事務次官に聞く
- ⑮ 中下 裕子・残留生有機汚染物質（POPs）条約案の成立と日本の課題
- ⑯ 「環境法の今」番外編 環境関連法令などの資料入手先及び入手方法
- ⑰ 藤原 寿和・「毒物のない社会」委員会（仮称）の設置について

21世紀 幕開け号

21世紀へ会員の夢

そして、国民会議への要望

国民会議広報委員会では、ニュース8号で、3つの設問について会員の皆さまの一言を募集しました。26名の方々から以下のようなご意見・ご要望が寄せられましたので、全文を掲載いたします。なお、編集に際し、最小限の表記の変更、誤字脱字・句読点の訂正を行いました。また、同封された資料などは割愛させていただきました。(順不同)

鈴木裕美子（新潟県上越市）

1. 誰もが真剣に環境の事を考え、お互いに自然をこれ以上こわさない努力をする。
2. 上記のような世の中にと願いますが、具体的には何をすればいいのか、今は自分の周りからごみの事、使用するもので環境を汚さないようにするくらいです。国民全体に具体的な環境汚染防止のためにできることを提示してほしいです。
3. TV、新聞で、臍帯から環境ホルモンが出たと報道されました。妊婦、胎児だけでなく、環境ホルモンは目に見える事なく広がっていると思うとゾッとしますし、未来はどうなるのだろうと心配です。皆が安心して暮らしていけるよう対策をとって下さい。

大西早苗（東京都江東区）

1. 生活の安定、公害のない世の中。森、川、山、海すべて昔どおり美しく、自然環境、自然のそれぞれふさわしい機能を発揮し、人間をはじめ生物が長生き出来る地球を取り戻したい。
2. ①国民会議の存在を知らない人が多い。PRに努められ、もっともっと国中の人が自分たちの問題として認識し、国の政策の緊急課題として取り上げられねばならないと思う。広報活動不足である。
②ごみを出さない。消費者ばかりに課題を持ちかけないで、販売側の容器包装の減量化を図るための運動も大切だと思う。

自分が国民会議の中でやってみたいことは、データを取り、議論ばかりに終始しないで、実際にダイオキシン問題をかかえている地方行政の指導、住民運動支援などをやってみてはと思

っている。

3. 人類が生き永らえるための最大の問題です。民間の声を大にする仲間作りもさる事ながら、国が力を入れてくれなければ解決されません。政治の代表者を多数送り込み、予算を獲得する事が先決問題だと思います。

河登一郎（埼玉県所沢市）

1. このテーマには沢山の投稿があると思うので、私は逆に反面教師として“なって欲しくない21世紀”を想像してみました。現状を延長すると、こんなNegative Utopia が単なる絵空事ではなく、21世紀の現実として人類が直面することになると思います。

A. 悲劇を伴った人口の激減：

環境対策が現状の延長程度と想定した場合、当面は途上国を中心とした人口爆発と環境破壊が重なって進行するため、21世紀半ばから後半にかけて次のシナリオのいずれか、または両方が不可避であろう。

①疫病の蔓延、重度の奇形、生殖能力の低下、飢餓など悲劇を伴った人口の激減

・過去何万年も、人類（もっと一般的にいうと生物全体）は自然淘汰を繰り返しながら自然「生態系」とのバランスを保ってきたが、産業革命以来の科学技術の発達により人口は飛躍的に増大した。

・しかし、地球の有限性と環境破壊の非可逆性を考えれば、これが永遠に続くはずはない。自然淘汰が人工的に回避されてきた分、蓄積された無理がdrasticに、爆発的な悲劇の形で訪れるのではあるまいか。

1. 「こういう21世紀になってほしい」あなたの夢を教えてください。あなたの想像する21世紀は？
2. 国民会議への期待がありましたらお書き下さい。自分が国民会議の中でやってみたいことも書いて下さい。
3. その他、何でも……。

②戦争による殺戮

- ・世界人口が100億を超えれば、至る所で衝突は不可避であろう。
- ・食糧、水、資源、エネルギーあるいは豊かな環境を奪い合う戦争の多発。
- ・国連の抑止力低下、アメリカの実質的世界警察機能の低下または放棄、さらには核兵器の進歩？と拡散により、核使用を伴う戦争の可能性も否定できない。

(注) 人口問題に対して環境対策がすべての回答を与えるわけではないが、環境汚染がシナリオをより悲惨なものにすることは確かである。

B. 巨大な“環境土建国家”の出現——「土建」「IT」「環境」と、看板を塗り替えただけの大きい政府の居直り

- ・財投を含む巨大な予算を、必要をはるかに超える“公共事業”に長年にわたってタレ流してきた結果、我が国が環境面でも、財政面でも瀕死の状態にあることは心ある国民には既に常識となっており、この状態からの脱却が21世紀最大の課題である。
- ・真の意味で脱却できるだろうか。

私の危惧するNegative Utopia とは（税金泥棒の本質は変わるまいから、国民がよほどしつかりしない限り）、悪評高い土建予算を“何でもIT”に置き換えたのと同様、“環境”に看板を塗り替えた浪費と土建とハコモノが同じ構造で続くことである。

- ・例えば、巨費をかけた無用なダムや港湾、農道空港のコンクリートを再び巨費をかけて壊し、“環境対策”をてんこに盛り込んだ巨大な人工自然を三度巨費をかけて日本中に建設する図である。また、“環境に負荷をかけない”という美名の下、廃棄物大型焼却炉に最新型のダイオキシン除去装置、脱臭装置、排水浄化装置、排煙脱硫設備、NOx 除去装置、CO₂回収装置、RDF、肥料製造機、ガス化熔融炉、ガス発電機などを重装備した“夢の廃棄物処理設備”が日本中に林立する図である。

そして“夢の設備”を誘導するために、地元住民や自治体が血眼になり、政治屋が薄汚い金を求めて暗躍し、企業が“業界秩序と製品の質

を守るため”密室で談合を繰り返し、行政がそれを保護する図である。

- ・目を覚ましましょう。我々はもうその中にいるのです！

2. 国民会議への期待：

- ・いたずらに間口を広げず、得意な分野（政策提言、法改正や条例を含む立法提言、公害訴訟や調停に関する情報バンクなど）に特化し、足りない分野は必要に応じて他の環境団体とそれぞれの強い分野で協力し、実現に結びつける。

自分が国民会議の中でやってみたいこと：

- ・政策提言への参加。特に外部不経済の内部化を含む環境と経済（ビジネス）との関わりについての理論を整理し、政策に反映させる努力を（他の環境／市民団体や政党の協力をえて）行いたい。

3. ①NPO法人格を取得すると、活動に幅と深み加わると思います。

②本会の名称は変えたほうが良いと思います。

理由・現在の名前は長すぎる

- ・ダイオキシンと環境ホルモンに限定せず、環境問題全般を対象にするほうが分かりやすく動きやすい。（間口を広げることではない）
- ・国民会議は他にも多く、混乱する。

渡辺正光（栃木県栃木市）

1. 残念ながら夢をもてない。なぜならば、環境行政の取り組み方、道義の退廃、政治屋跋扈（ばっこ）、政治家の貧困など、総論的に動いても各論的に野放しで、言動に厚顔無恥も甚だしい。

2500年前に釈尊がご入滅の際、説かれたという「利他行に努める」という精神に国民がならなければ、世界から相手にされなくなる。

2. 政府、国会へ働きかける運動もさることながら、地域社会へ考え方を浸透させ、住民の力をバックに問題を提出すべきかと考える。現状では名誉役員の集まりに終始してしまうように思えてならない。

3. 時代逆行とも思われるので、スクラップを同封します。通産行政、環境行政の数知れないミスマッチが横行する現状は情けない限りである。

1. 「こういう21世紀になってほしい」あなたの夢を教えてください。あなたの想像する21世紀は？
2. 国民会議への期待がありましたらお書き下さい。自分が国民会議の中でやってみたいことも書いて下さい。
3. その他、何でも……。

石井鈴子（神奈川県平塚市）

1. 山紫水明 { 隔離させず } での文明生活
死語にさせず }

宇井 純（沖縄県那覇市）

1. 20世紀に体験したような不当な苦しみの少ない社会をめざして努力するが、それがどこまで実現するかは見通しが立てにくい。高木仁三郎氏がめざしたような、市民の科学技術を実現するためにささやかな力をふりしぼっているところである。
2. わかったことを整理し、その基盤に立った政策を小さくても目に見える形で実現したい。その点ではダイオキシンは問題になる濃度が小さすぎて厄介であるが、いずれももう少し総合的な指標が見つかるのではないかと多少楽観的に考えています。沖縄では鉛、カドミなどの重金属を調べてみましたが、あまりきれいに出来ませんでした。
3. 環境省をまともな役所にしたいですね。

杉本栄次（東京都東久留米市）

1. 現在実用化のための研究を官民で行っている「高温高圧水蒸気超臨界の環境で石炭を始めとする、あらゆる有機物の反応によって、究極のエネルギー水素」をつくりだすイノベーション技術が、日本で開発され、現在テスト段階をクリアしています。21世紀の早い段階にこれが実用化され、燃料電池を始め、工業用エネルギー、家庭用のエネルギーにこの水素を使って、石油を始めとする化石燃料の代替になること。これはもう夢ではありません。実用化促進の運動を。
2. 国民会議が、ダイオキシン、環境ホルモンを撲滅するために、上記の「超臨界流体酸化システム」の技術を、国家プロジェクトとして、育成するような運動を展開されんことをのぞみます。そのために現在も微力をつくしています。

ギル佳津江（京都府京都市）

1. 経済至上主義の風潮をおかしい、正しくない

と考える人々の数が増えて多数派になったら、この世界も変わると思います。特に日本は、真の信仰も哲学も持たずに、商業主義的トレンドにのっかって流されている人が多すぎます。人と同じでないと安心できないという日本人の心理は、多くの面でマイナスです。本当の意味で日本人は公共心が欠如していて、最近はとくにひどいです。一人ひとりが自分の頭で考えて行動を起こせるようになったら、何が本当の幸せが見えるようになったら、意外に早く世界は良い方向に変わるのではないかと思います。

2. 私は会員を増やすお手伝いをできたら嬉しいです。国民会議の活動をアピールするようなパンフや申し込み書などがあれば、10～20部送ってもらえたら、わかってもらえそうな方々にアピールできると思います。
3. ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議のスタッフの方々に敬意を表します。本当にすばらしい活動だと思います。私には会費を払うこと以外、あまり協力できることはないかもしれませんが、これからも日本の未来のために活躍して下さることを心よりお願いいたします。

岩田友和（埼玉県大宮市）

1. 20世紀を担ってきた一人として「20世紀のアカ落としを」と考えて、「飲料水の自動販売機から見えた環境問題」を提唱し、5～10年をかけて、市民の話し合いと検討結果として追放（買い控え）に取り組みます。皆さんの問題として考え、実行して下さい。
2. 適当と思うイラスト、質問内容（まず出来ることから）をそちらでえらんで、会員に紹介して下さい。

池田治夫（東京都東久留米市）

つくりだそう21世紀を！

市民の声を反映させる政治の仕組みの確立。コンピュータ投票で全国民が政策に投票を。

議員はいらなくなる。公共工事の発注はインターネットで世界から、談合や誰か実力のある権力者が発注に介入することはできない。そも

そも工事の優先順位は正確なデータをコンピュータが判断して、予算との兼ね合いで自動的に判断する。データの改ざんは重罪。

国民投票が予算執行の優先順位まで決める。行政は最低限度の人員で執行され、市庁舎は不要になる。

今まで出張所に行っておこなっていた仕事は、自宅からコンピューターですむ。機械の使えない人は各駅に設けられた国の行政機関の出先代行業者の窓口で処理する。

小さな政府であるが、福祉は充実できる。利権に走る政界、財界、官僚の組織は完全に解体された。自覚した住民の自治が成立する。環境はgoods 減税、bads 増税により著しく改善される。

環境にプラスにならなければ商売が成立しないので、企業の反映と環境浄化が両立する。利権がらみの土木工事は環境を守るダム破壊工事へと転換され、広葉樹林の植林が進み、利水、治水、環境保護がてい立する。国境は消滅し、世界中の人々が自由に交流し、飢餓、貧困が世界的に解消する。軍事力で富の独占をはかってきた一部の権力は、世界政府の警察力により武装解除。金と軍事の権力構造は、地球市民の国民投票による公正、公平な判断の地球市民自治に代わる。行政権力を守るための徴税構造から最低限の納税構造に、地球市民の投票によって納税の合意形成が可能になる。

森 浩一（埼玉県川口市）

1. 安心して暮らせる
 1. 環境
 2. 健康
 3. 治安
2. 1. 汚染された土壌の活性化
 2. 環境捜査官の設立
3. 企業も個人も環境の意識が少ない

藤田教行（岐阜県岐阜市）

1. 全人類が地球環境の修復のため、それぞれの持ち場で協力し合う世紀

2. インターネット上でML（メーリングリスト）による会員間の交流の場を立ち上げて欲しい。（このような連絡網はいざという時、重要な働きを受け持つ可能性があることを考慮にいれておかなければならないと思う）

岩田美恵子（東京都大田区）

1. 地球人として国際協調の下、環境問題、経済、政治など、諸問題を解決していく市民組織が多数存在し、ネットワーク化される。

足元の生活の拠点となる地域社会においても、さまざまな自発的市民活動が展開されている。

これらは、国家、地方自治体とも連携し、あるいは自立しつつ存在意義を認知され、後方支援されている。

2. 地方自治体に居住する住民に対しても、身近な問題であることをアピールすること。

また、日常生活の中で、どう解決を図っていくべきなのか（生活者として）共に考えていく。

駒井ひとみ（兵庫県神戸市）

1. 排気ガスの出ない静かな車が、緑や花々の多い都市を走っています。科学が進歩し、ダイオキシン問題、公害のない、自然と人間が科学の力によってバランス良く生活しています。物質中心の今の状態ではなく、文化や精神面が充実している世紀。

2. 私のような子供がいる一主婦ができると言えば、署名や自分の家のごみを出さないようにするぐらいですが、そんな動きづらい人でも家でできる事を提案して下さい。思いはある人は多いと思いますが、きっかけとなる力が地方にまで分散していない気がします。

国民会議の推薦するエコ商品などの紹介など。

3. いつもお世話になっております。そして国民、地球のための活動を推進して下さいありがとうございます。いろいろ思うところはあるのですが、なんとなく他人まかせ、賢い人まかせでおしりが重い主婦です。どうかこれからもカ

1. 「こういう21世紀になってほしい」あなたの夢を教えてください。あなたの想像する21世紀は？
2. 国民会議への期待がありましたらお書き下さい。自分が国民会議の中でやってみたいことも書いて下さい。
3. その他、何でも……。

ツ!!を入れて下さいませ。

内海嘉博（東京都東村山市）

皆さんへ

太陽は東から昇りますよね。それが普通ですよ。

でも西から太陽が昇っても何も変わりませんよね。

今を生きるという事はそんなもんかもしれないよ。

東から昇る太陽が普通で、西から太陽が昇れば異常。

男は女を愛し、女は男を愛す、それが普通ですよ。

しかし、男が男を愛したら、それは異常ですよ。

そして、それがダイオキシンの汚染によるものだとしたら怖い事です。

女はつつましくが以前の教えですよ。しかし、今では性に対して、ものすごく積極的ですよ。結婚している女性も同じですよ。そして、男は逆ですよ。その根元がダイオキシンだったら本当に怖い事です。

世の中が、どうなっていくのだろうと心配せずには、いられませんよね。

太陽が西から昇ってきているような事ですからね。

今は、あたりまえの事が、あたりまえでなくなっているんですよ。

親の子に対する愛情も、子の親に対する尊敬も、なくなっているんですよ。

何かがおかしいですよ。それがダイオキシンによるものだとしたら、私たちは、この先何を支えに生きていけばいいんでしょうか。

子供たちにどう生きろと、教えればいいのでしょうか。

ダイオキシンは、人を選びませんよね。会社の社長さんも、国会議員も、自衛隊員も、警察官も、お医者さんも、男も女も、大人も子供も……！

その先にあるのは、何でしょうか。考えるだけでも怖いんですよ。

本当に怖いんですよ。しかし逃げているは、ますます状況が悪くなりますよね。世界中のダイオキシンの約40%を日本は排出しているんだそうですよ。もうこのあたりで目を覚まして、いい時期ですよ。

だとしたら、やっぱり塩素系ですよ。この塩素系を根絶やしにすればいいんですよ。そうすれば日本人は蘇りますよ。愛情も、人情も、お金よりもっと大事なものが、人々の心の中に再び芽生えてくるんですよ。

住みよい国にしましょうよ。昔のように、世界で一番安心して住める国にもどしましょうよ。そのためには、塩素系はいらないんですよ。人々の生活の中に塩素系は入れてはいけないんですよ。塩素系は生活を便利にはしたけれど、人々の心を蝕んでもいるんですよ。私たちは生活の便利さと心の豊かさを計りにかけているようなものですよ。ならば、心の豊かさを取りましょうよ。そして、塩素系の代用品を考えましょうよ。

子供たちの将来のためにも、ねー皆さん。

河野早智子（東京都三鷹市）

1. 昨春秋、カナダの東側、モントリオール、トロント、ケベック側は空気が臭く重苦しいと、国会議員たちが戻ってから手紙を書きまして環境の問題をお願いしたのです。

しかしながら、同じカナダでも今年5月頃行った西側、バンクーバーは清潔な都市でした。世界のモデル都市になっています。これは意識の違いでしょう。協調性があります。ドイツに旅行したときも、ウィーンに行ったときも（同じドイツ語圏ですが）ごみ処理の効率化を感じました。中国は上海、北京とも経済成長重点で、もうとても空気は悪いです。私の知っているドイツ大使館に勤めているドイツ人は「生活するにはドイツは大変窮屈です。集まって協議してそれに従わなければならない。日本のように自由ではない」と言ってます。でも全ての人の共通の利益です。

バンクーバーの郊外ビクトリアでも家庭ごみ

は2個まで。戸主が責任を持つ。

枯れ葉は別途無料で市が集め、それを自然発酵させて（燃やさないが、発酵温度70度くらいになるので農薬を使用しない）発酵土を財政源にしています。

〈私の意見〉

焼却炉ばかり作ることを考えずに、ごみの減量方法を促進した方が良い。

己が利益、利権ばかりを考えることをせず、協調性、方向性を多くの人に訴えていく。

2. フィリピンのごみの不法廃棄にあるように医療のごみの始末。

例えば、糖尿病で人口透析をしなければならなくなったとします。長く人工透析をしている人は、その分高いのですが、平均して一回4～5万、初期で3～4万円くらい医療費がかかるそうです。1日おきにしますので月額は高額です。保険で個人の負担が少ないとはいえ、国庫の一般会計を脅かします。

処置後の器具の廃棄処分。糖尿病の他に、どのような病気（血液が汚いので併病を起こしやすい）を持っているか分からない人の器具を廃棄するその行方。ウイルスにかかわる問題ですから、絶対監視していかなければならないと思います。

病院でオペをしたあとの処置は、どういう過程で最終処分にされていくのか。

問題意識はあっても、普通のおばちゃんなのです。意見があっても、資料を集める権限がないので集めにくいというのが最初の壁になります。

この問題に関心をお持ちの方がいらしたら、できるだけお手伝いしたいです。

3. 車の排気ガスについて

土屋武蔵野市長は、環境問題に大変関心がある方ようです。

環境問題を考慮して路線システムを施行したムーバス（市内循環バス）は、排気ガスが出ない装置がついているとっています。が大型バス、消防車は出力の関係で出来ないそうです。私はそうは思いません。バンクーバーの大型バ

ス、トラックは日本の数倍も大型ですが、紫色のガスを吐かないし、臭くない。これは精製された燃料の質の良さではないでしょうか。

日本では道が狭いのに、車の紫色の排気ガスの出口は幼児が立っている目線の位置になり、車の持ち主は容赦なしですから子供はかわいそうです。

①燃料は良質のものにする。この問題点は何か。

②車の排気ガスの出口を下向けか、歩行者側でない方にする。

③東欧は車が主役でなく、人が主役に考慮されています。これは感心しました。

車に弾かれた自転車が歩道に乗り上げて、人をリンリン弾くことはないのです。

歩道、自転車道、車道をはっきり分離して安心して歩けるようにする。区分の仕方を変えればいいのです。提言していきたいと思います。

④ぜひ車も家電のように循環式になりますようにと思います。

●緑化について

日本にはゴルフ場が1400くらいはあるでしょうか。1 番北海道、2 千葉、3 埼玉、ゴルフ場は18ホールで約30万坪の広さです。高松に飛行場を作るのにゴルフ場を買収しました。航空3社です。会員に分けたと聞いています。それまでは小さい飛行場でプロペラ機でした。30万坪はおおよそ皇居の広さに匹敵します。国定公園以外は造成上安易なので、山のてっぺんを開いてしまいます。

混んでも6分おきくらい（普通は10分おき）ですから、1日にそんなに多くの人がプレイできません。ぜいたくな遊びです。この広いゴルフ場に美観のため大量の農薬が撒かれることので不安です。

不況下にあるのですから、植物の苗を育てることは出来ないものかと思います。ブナの木とかの大木になるものを。

アフリカのある国ではバラを作っていて、それが環境破壊になっているとか聞きますと、簡

1. 「こういう21世紀になってほしい」あなたの夢を教えてください。あなたの想像する21世紀は？
2. 国民会議への期待がありましたらお書き下さい。自分が国民会議の中でやってみたいことも書いて下さい。
3. その他、何でも……。

単には行かないものでしょうか。

これは私が常々思っていることです。

小島 忍（神奈川県横浜市）

1. 21世紀は、20世紀の使い捨ては美德といわれた時代の反省の世紀として、節約と省資源の時代とならなければ、人類の未来は開けて来ないでしょう。汚染レベルも今の1/10以下を目標に法律が作られ、新しい社会モラルが、形成されるでしょう。

一見、辛い苦しい時代の到来かと思われませんが、問題意識を持って習慣化すれば、早起きの習慣と同じで辛さを感じなくなるでしょう。

2. 環境先進国、スウェーデンなどが、今日まで実行してきたことをよく学んで、行動してほしい。たとえば家庭のゴミの有料化を行政に働きかけたり、PCB変圧器の野積み・放置の問題など、有毒とわからずに許可した国に責任があります。国に撤去させる法律を作る必要があると思います。

吉澤正一（神奈川県横浜市）

2. 地域の焼却炉問題に関心を持って長い間、努力してきました。しかしながら、シア・コルボンの『奪われし未来』で告発されているような地球規模の汚染については、国民会議のように組織的運動をする機関がなければ個人では歯がたちません。地道に永続的にご協力下さい。可能なボランティアには参加するつもりでおります。

藤井清子（福岡県遠賀郡水巻町）

1. 一人ひとりがもっと環境問題に目を向け、若い人が安心して子供を生み育てられる世の中になってほしいと願います。
2. 皆様の熱心な取り組みをマスコミが取り上げてくれるのを期待します。テレビなど余りにも低俗な番組が多すぎます。
3. 近くに生活協同組合（グリーンコープ）の店が出来ましたので、すぐ組合員になりました。塩ビラップの回収や無農薬、低農薬の野菜、果

物など、また粉石炭の使用をすすめたり、買物袋の持参など、地道な取り組みをしています。ただ値段が高い事が難点です。

井沢秀保（東京都多摩市）

1. 政治家や経営者に、伊藤忠商事の丹羽社長のような人が多くなることを期待します。

個人的には自然や生くとし生けるものと共生し、志高く生きたいと思っています。

2. 今まで以上に環境を良くするための情報（InformationばかりでなくIntelligenceも）発信して下さい。お願いします。

芹生美智子（千葉県印西市）

1. 子供のころの美しい風景は、小学校の前の一面の麦畑、緑の波が風にゆれて畑の中で遊んだ記憶、帰り道に夕陽の土手を並んで帰ったこと、戦後の何もない時代に、おもちゃやゲームはないけれど自然の中で過ごした日々でした。もうそんな風景は望めないでしょうけれど、21世紀の子供たちは、自然の中でも社会の中でも、安心して身をゆだねて過ごせる、そんな子供時代を送ってほしいと願っています。しかし現実には、社会も環境も不安がいっぱいです。ここまで蓄積されてきたダイオキシンや環境ホルモン、いろいろな化学物質や放射性物質などによる汚染がすすみ、深刻な事態になっていると聞きます。文明の進化とは、何なのだろう。20世紀に汚してしまった地球を、21世紀に100年かかっても浄化していく努力をする。そのきっかけを今作らないと次の世代に引き継げない、そんな気がします。

風間 駿（東京都世田谷区）

1. 日本の農村の自然が荒廃しないで存在する。日本の森林が荒廃しないで存在する。

このままWTO体制の下では、日本の農村はsustainable（持続可能な）でない。

2. 農薬や殺虫剤を使わない（混植などで可能）キャンペーン。

・塩素の物質循環を明らかにし、農薬・殺虫剤

を作らなければならない理由を明らかにする。
(塩素は諸悪の根源)

・洗剤なしの生活キャンペーン。(マイクロプラスチック水の利用などで可能)

浅野晴義 (愛知県名古屋市)

1. 間もなく始まる21世紀が、希望にあふれる素晴らしいものになるとは、とうてい考えられないのですが、より多くの人々が差し迫った危機に目覚めて、行動に移ることができれば、まだ未来に希望をもつことが出来るように思えます。

内分泌攪乱物質の問題は、極微小のppt～ppbレベルの話になるので、人々の理解能力を越えているように思われます。どうすれば、よく理解して貰えるのでしょうか。

一方で多くの学者や行政の担当官が、「人間に対する内分泌攪乱物質の影響は、まだよくわかっていない」などと、もっともらしく述べている間に、悲劇は進行していくでしょう。

おそらく出生するすべての子どもの平均的数値として表わすことが出来たとしたら、年ごとに①免疫的異常が甚だしくなる。②知能（もしくは脳の発育）が低下する。③精子の数はますます減少する。(年々、1mlあたり80万～100万個の精子が減少中といわれます。その数値は地域により差があるでしょうが、減少が続いていることは間違いないと考えられます。やがて精子数が1mlあたり4000万個を割ると、妊娠が難しくなります。それまでの時間を私は25年と計算しています)——といった事態が進行するでしょう。

いずれにせよ、人類の滅亡が、恐らく100年単位の期間の問題として目前に迫っていることは間違いないので、私たちの活動によって、内分泌攪乱物質をどれだけ環境から閉め出せるかが21世紀最大の課題となるでしょう。

市民と行政の力で、すべての内分泌攪乱物質を閉め出す努力が続けられなかったとしたら、他の動物種を巻き込みながら、人類も滅びるしかありません。

2. 行政に対する働きかけなど、精力的な活動を続けておられることにいつも感謝しています。ただ、集会に関しては、いろんなご都合がありだとは思いますが、年に1、2回は土曜の午後、または日曜を入れていただけると出席可能なのですが。

朝日孝治 (兵庫県芦屋市)

1. Communicate の時代、たがいに見つめあい、悪は悪、善は善と、2分化するコトで本質を解く。そして真の平和というモノを国民が共有し、戦争や葛藤、争いやけんか、いじめの根本を処理できる体制を作り出し、ゼロ・エミッション(発生をなくす)計画の推進へと、紙面では書ききれない。皆が平等そして平和に生きてゆく人類最期の出発点。

2. グループ全体で、世界に呼びかけるコトが数種ございます。ご一報下さい。ご自身の“環境”に応じて決定させていただきたく、また、今現在いる方も、輪になってノウハウなどのご提供もできるかなと思っておりますので、コンタクト取りませんか。その時、いろいろお話させていただきます。

3. 環境が悪化の一途をたどっております。自然のみでなくポジティブな人間精神をも破壊され、亜鉛のない土地に生える植物は容易に“キレル”などの子供たちを作り出し、酸性雨の降る今日、もはや自分の食物くらいはご自身で作るべきではないでしょうか。そして、このような現状の中から一刻も早く抜け出し、国に当然のことを期待するのではなく、むしろ国の何たるかを認めさせ、市民自らが率先して啓蒙運動のみでなくネットワーク的な展開をするべきモノであります。

岡澤成郎 (東京都葛飾区)

1. ①化石燃料を、どのような型であれ、いっさい使わない循環型社会を実現する。(今後掘り出さないの意)

②原発を始め最終廃棄処分の不可避な核関係は、そのすべてを廃止する。(理由の如何に拘

1. 「こういう21世紀になってほしい」あなたの夢を教えてください。あなたの想像する21世紀は？
2. 国民会議への期待がありましたらお書き下さい。自分が国民会議の中でやってみたいことも書いて下さい。
3. その他、何でも……。

わらず)

③食物連鎖を始め自然の循環を回復させるため、スエーデンのナチュラル・ステップの4つのシステム条件を日本社会にも推進し、地球の汚染脱却を図る。

④上記をまず日本で実行し、実現させてからA S I A諸国に呼びかけて、技術供与でリーダーシップを回復し米国にも波及させることが夢であり、一部でも実現したら、今の後進国日本を精神文化から本当の先進国として世界の人類に貢献できると考える。

⑤ネットワーク「地球村」の提唱するNGO国連を創設し、世界のNGOやNPOが手を結んで、今まで横暴な野望を果たしてきた大国や独裁国のゴリ押しが通らない世界、物質文明より精神文化の社会としたい。

2. ①日本にも緑の党創設をお願いしたい。国会議員の半数近くを女性とし、政治のことは知らなくても心の広いしっかりした人を「出たい人より出したい人を」と、この実践を国民会議に期待したい。

②日本のNGOやNPOの中に、少なからず素晴らしい心掛けの人がいますが、この方たちは誰かが出したい人として推さなければ、自分からは出馬しない。そこで社会に向かって、団体・個人を問わず呼びかけて推薦していただき、緑の党としてふさわしい方を議員として応援する態勢を整えていただきたい。

③政治に無関心の層が増えたのは、政治が面白くないからで、女性と子どもと年寄りを集めて、楽しいシャドー内閣を作らせ、ロールプレイング方式で希望の大臣に据え、言いたい放題、言いたいことを言わせると面白がって集まるし、交互に立場を変えて発言させると相手のことも考える習慣なども身につけて、老若男女が集まると議論することが自然になってくるのではないのでしょうか？

3. その他にも幾つかの部会を設けていただきたい。例えばとても役立つ発明や発見、新製品や工夫でも既存の勢力がこの伸展を阻止することが多く、社会の改革に必要なものが日の目を見

ないままです。

少し例を挙げれば、①不耕起栽培の無農薬田んぼは、開発されてから10数年、改良を重ね農薬を使わず、石油の使用料が半減し、水も50%以下と経済的で、10アール当たり普通12~13俵のところ7~8俵と減反にも貢献し、田んぼのメタン発生に至っては、10アール65kgが0.5kgと13分の1と画期的ですし、生物の食物連鎖による生態系の蘇生化と活性化、プランクトンや昆虫小魚貝類鳥類の繁殖は、昔の復活を告げます。

②創生水は、洗剤を必要としないでクリーニングが営業できるくらいクラスターの細かい水です。用途はたくさんありますが、環境ホルモンの河川流出防除から考えて、クリーニングの営業や産業用の洗浄水用として広く採用されると、一挙に濃度の低下が図れるのです。パンフレットは社長の性格上、多少派手な作りですが、水質の優秀さは驚異的で、今カナダの環境庁のウエットクリーニング部と提携し、カナダ全土と北アメリカにウエットピュアを広めるためトロントで共同研究が始まりました。このように、いつも優秀な新発明などは、海外に優先され、その評価で日本に取り入れられるのです。

③磁力発電器も地球の持つ磁力エネルギーを電気に変えるだけの、とてもシンプルな発明で、特許が認められているのに、通産省では産業界のことを考えて一切取り上げません。これからの研究に豊富な人材と資金を注ぎ込めば、産業界だけでなく、電車も車も飛行機もビルや家庭などもそれぞれに自家発電が可能になり、スモール・イズ・ビューティフルの無公害と資源の無使用が見込まれると考えます。

田中正直（東京都中野区）

1. 「未来は想像するものでなく、選択するものだ」という視点に立って、善・悪の基準の基礎が「自然環境」になる。この事によって、21世紀前半は大混乱となり、後半は明るい持続可能な社会に変身する。

皆さまの声に応えて……

21世紀を迎えるにあたって会員の皆さまからの投稿をお願いしましたところ、全国各地からたくさんのご応募がありました。ありがとうございました。

国民会議の活動について、いろいろなご意見をいただきました。

「得意分野に特化し、足りない分野は他団体との協力を」というご意見をくださった所沢の河登さん、国民会議ではいままさにそのような活動をめざしていますので、さらに具体的なご意見をどんどんお寄せくださるようお願いいたします。

栃木の渡辺さん、東京の岩田さんからご指摘のあった地域社会との連携、住民へのアピールはとても大切ですね。これまでは国に対する提言が主でしたが、今後地域での取り組みについても考え活動していきます。2月9日には「ダイオキシン法の実態と今後の課題—自治体担当者から」と題して学習会を開催する予定です（20ページのお知らせをご覧ください）。

新潟の鈴木さん、神戸の駒井さんからは、環境汚染防止のためにできること、家でできることを具体的に提案するようにとのご意見でした。一人ひとりの毎日の生活を見直して地道に実行していくことが大切ですから、ニュースレターやホームページで日々の暮らしに役立つ特集を組むことも検討していきます。

農薬・殺虫剤・洗剤を使わない、塩素系を排除するという東京の風間さんと内海さん、PCB問題について指摘してくださった横浜の小島さん、国民会議はJ PEN（残留性有機汚染物質廃絶日本ネットワーク）の一員として、有害な農薬・PCBなどを廃絶するための条約制定に向けて活動してきました。本誌15ページの報告もご覧ください。また、ぜひJ PENの会員になってくださいますようお願いいたします。ちなみに、東京都ではPCB処理に向けて動き出していますし、近くPCB廃棄物適正処理特別措置法案が国会に提出されます。

川口の森さん、土壌汚染・環境捜査官の創設についてはこれまでも政策提言をおこなってきましたが、引き続きダイオキシン委員会を中心に汚染の防止、汚染土壌の浄化の問題に取り組んでいきますので、どうぞご参加ください。

医療器材の廃棄などの問題も検討していくことになっています。4月以降にシンポジウムも企画しています。シンポジウムは主に土曜日の午後または日

曜日に開催しています。東京の河野さん、名古屋の浅野さん、ぜひご参加ください。

本誌19ページにご案内していますが、昨年12月から「毒物のない社会委員会」が発足しています。東京の杉本さんはじめ新しい技術の情報などをお持ちの方、新委員会に情報のご提供をお願いします。

広報活動についてもたくさんのご意見をありがとうございました。

国民会議の存在が知られていない、広報が足りない、マスコミが取り上げてくれるようにとのご意見をくださった東京の大西さん、福岡の藤井さん、確かにまだまだ知られていません。広報委員会一同、PRに努めていきたいと思います。会員の皆さまもお知り合いに入会を勧めてくださいますようお願いいたします。会員拡大にご協力くださるという京都のギルさん、いま新しい会員拡大用パンフレットを作成しています。できあがりしたらニュースレターでお知らせしますので、ぜひご利用ください。

国民会議が広く知られるようになり、多くの会員を抱えるNGOに成長すれば、東京の岡澤さんのご提案のように緑の党の創設や支援ができる日も来るかもしれません。

また、現在、ホームページの充実のために作業中です。会員相互のコンタクトがとれるようにしたいという岐阜の藤田さん、兵庫の朝日さん、ゆくゆくはメーリングリストの立ち上げもできたらと思っています。

広報の方法もちろんですが内容が大切です。インフォメーションばかりでなくインテリジェンスも発信するようにという東京の井沢さんのご意見、肝に銘じてがんばります。

他にも、ご自身の活動や思いをお知らせくださった国民会議を激励してくださった神奈川の石井さん、沖縄の宇井さん、埼玉の岩田さん、東京の池田さん、横浜の吉澤さん、千葉の芹生さん、東京の田中さん、どうもありがとうございました。

国民会議は地道に息の長い活動をしていきますので、会員の皆さん、これからもいろいろな形でご参加ください。お待ちしております。

広報委員会

環境省の発足と山積する課題

国民会議常任幹事
江戸川大学環境情報学科講師

川名 英之

新設された「廃棄物・リサイクル部」

「環境の世紀」と言われる21世紀、地球環境の破壊は否応なく進み、国内の政治も経済、社会も地球環境問題の動向によって大きく変わらざるを得ないでしょう。省庁再編に伴う環境省の設置も、このような環境問題に対処するための態勢整備です。環境省は22省庁が半分の1府12省庁に削減される中で唯一、庁から省に格上げされました。では環境省はこれまでの環境庁と比べて、どこがどう変わったのでしょうか。

環境省は1月6日、直前の環境庁時代より1部、2審議官、3課、1参事官増やされ、職員数が111人増の1,131人になりました。1971年7月の環境庁新設当時、総人員は501人でしたから、人員は30年間に2倍に増えたわけです。

発足した環境省には旧厚生省から廃棄物行政と「廃棄物処理法」が移管されたうえに、リサイクル行政にも取り組むことになり、「廃棄物・リサイクル部」が新設されました。「廃棄物・リサイクル部」は厚生省水道環境部の廃棄物部門（2課、38人）当時より1課、17人増やされて3課、55人体制。環境省が新たに担当する廃棄物行政を科学的にサポートするため、国立環境研究所に廃棄物研究部が新設されました。

地球環境部門を部から局に格上げ

地球温暖化を始めとする地球環境問題に対応するため、これまでの地球環境部（2課、42人）が地球環境局に格上げされ、体制が3課、66人

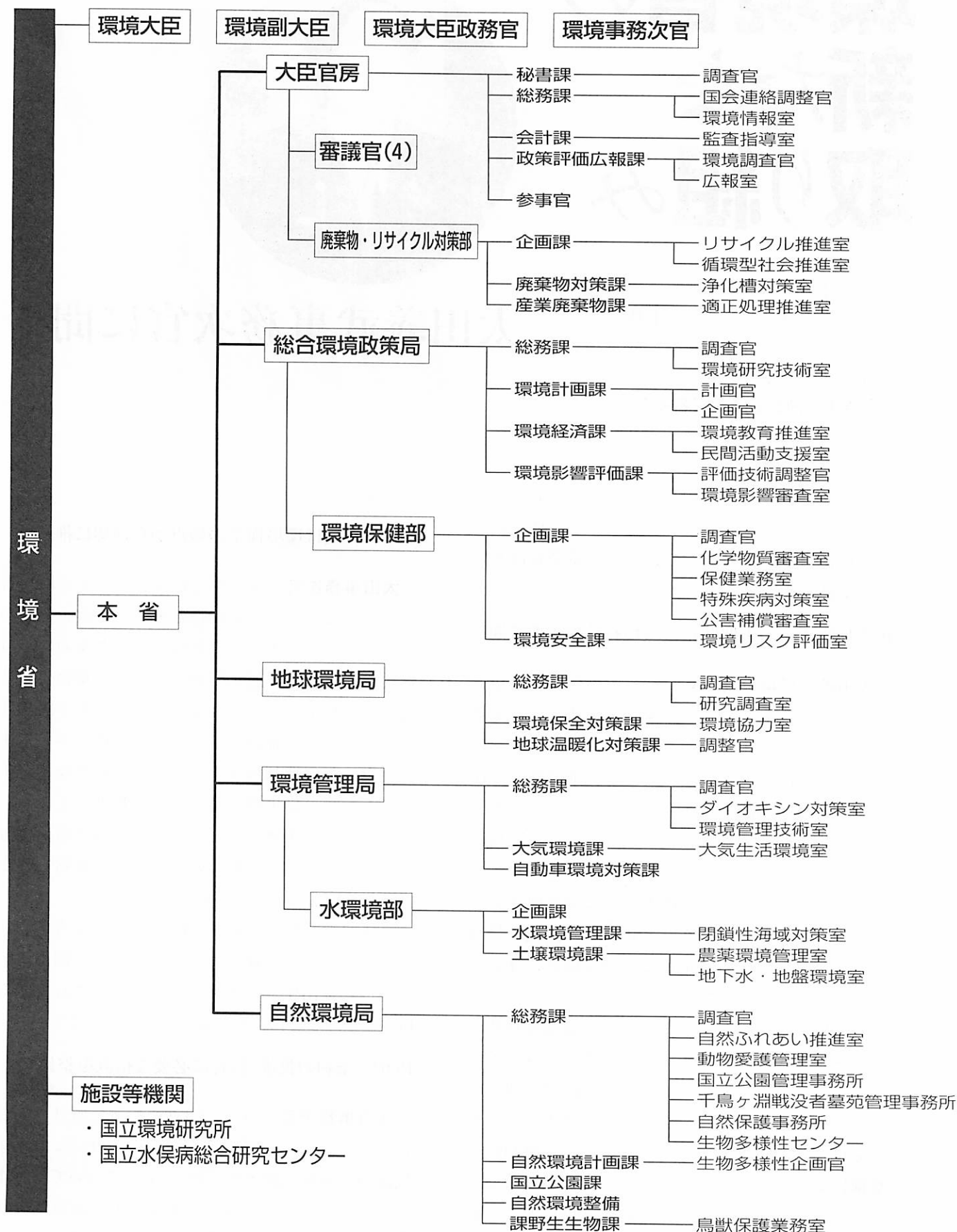
に強化されました。決して十分な体制とは言えませんが、ひとまず国内外の重要課題となる環境問題に力を入れて取り組む態勢づくりの一步が踏み出されたと言えるでしょう。

また環境行政・環境政策の総合的展開を図るために「総合環境政策局」が設置され、環境経済対策を強化するために環境経済課が同局内に新設されました。「ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議」が強化を求めているダイオキシン対策は、ダイオキシン対策官が中心になって進めます。

大気保全と水質保全の両部門は環境管理局に統合され、大気関係は主に大気環境課と自動車環境対策課の2課、水質関係では「水環境部」が設けられます。水環境部は水環境企画課、水環境管理課、土壤環境課の3課で、人員は61人。自然保護局は総務課、自然環境計画課、国立公園課、自然環境整備課、野生生物課の5課で、人員は89人。森林保全が共管となるに伴い、国立公園・野生生物事務所の人員が増やされ、森林生態系の保全に力がいれられます。

地球環境問題解決のための積極的取り組みと国際協力の強化、廃棄物行政の建て直し、生活環境中に増えた発がん物質による環境と人体の汚染防止策の推進、ダイオキシン発生の主要な原因になっている素材対策の推進、実効ある循環型経済社会システムの確立など環境省が取り組むべき重要課題は山積しています。環境省は国民の環境保全意識の高まりを追い風として、これらの問題の解決に向けて積極・果敢に取り組む、成果をあげてもらいたいものです。

環境省の新体制（機構図）



環境省の 新たな 取り組み



太田義武事務次官に聞く

環境省は山積する重要課題にどのように取り組むのか——。1月6日の同省発足と同時に就任した太田義武事務次官に聞きました。

(聞き手＝国民会議 川名英之)

——「ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議」は毒物による環境と人体への汚染のない社会の実現を目指しています。この分野で、環境省はどのような取り組みをするお考えですか。

化学物質汚染の未然防止は環境行政の重要課題

太田義武環境事務次官 環境中の化学物質が人の健康や生態系に及ぼす影響の未然防止は、環境行政の重要な課題です。「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」(略称・PRTR法または汚染物質排出移動登録法)の施行準備や「ダイオキシン類対策特別措置法」に基づく対策を進めるとともに、環境ホルモンについては国際的な連携のもとに調査研究を行い、その成果を公表するなどにより、国民の皆様に安心と安全をお届けすることが環境省に与えられた責任と考えています。

——環境省が発足して旧厚生省から廃棄物行政が移管されました。これまでの廃棄物行政はダイオキシン対策の立ち遅れ、最終処分場の汚水漏れ、ダイオキシンの発生につながるプラスチックの焼却を規制しないこと、大型の連続式ごみ焼却炉の整備によるごみの広域処理の導入など環境汚染の面で問題がありました。環境省は、環境保全の観点から、このような問題点を改めるお考えはあり

ませんか。

廃棄物行政は環境保全の観点から適切に推進

太田事務次官 廃棄物行政は、これまで厚生省が数次にわたって「廃棄物処理法」を改正しながら、関係省庁と連携して各種リサイクルのための新法を制定し、不適正処理の防止、廃棄物の減量化や再生利用に努めてきました。また科学的知見に基づき、ごみ焼却施設や最終処分場の各種基準の設定、ごみ焼却施設の大型化や集約化などダイオキシン類の排出削減対策などを推進してきました。今後、廃棄物行政を一元的に実施する環境省として、環境保全の観点から適切な廃棄物行政を推進していくことにしています。

——残留性有機汚染物質(POPs)条約が今年5月に調印されます。環境省はこれに伴い、国内法案を国会に提出するお考えですか。保管されているPCBの処理などに、どのように取り組みますか。

POPs条約の批准・履行に必要な措置を整備

太田事務次官 PCB、DDTなど難分解性で生物に濃縮されやすい残留性有機汚染物質による地球規模の汚染を目的とするPOPs条約については、昨年12月にヨハネスブルグで開催された政府間交渉委員会で条約案が合意され、今年5月にストック

ホルムで開催される外交会議で採択される見通しです。これに対応するため、化学物質審査規制法などの既存の法律の活用に加え、新たな立法措置が必要となるか否かは、今後十分な検討が必要ですが、同条約の批准と履行に必要な国内対応措置の整備に万全を期していく方針です。

環境省は保管されているPCB廃棄物を早期かつ適切に処理できるよう、地方公共団体と協調しながら環境事業団を活用し、広域的なPCB廃棄物処理のための施設整備などを推進するとともに、中小企業者に対する処理費用助成などのための基金を創設することにしていきます。さらに、これらの施策を実現するために必要な立法措置を行うこととし、次期通常国会に法案を提出することにしていきます。

——PRTRでは、今後どのような取り組みをなさいますか。

今年4月から「PRTR法」に基づき、排出量を把握

太田事務次官 PRTRについては、平成11年度（1999年度）に公布された「PRTR法」に基づき、今年4月から対象事業者による排出量の把握が開始され、14年（2002年）4月以降に対象事業者からの届出、14年度後半には第1回の排出量などの集計と公表を予定しています。環境省としては、各都道府県などの協力もいただきながら、この仕組みが円滑に施行されて化学物質に係る環境保全対策が一層進展するよう、体制の整備や事業者への普及・啓発、国民への情報提供を進めていきます。

残留性有機汚染物質 (POPs) 条約案の成立と日本の課題

残留性有機汚染物質 (POPs) 廃絶日本ネットワーク
ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議事務局長

中下裕子
(弁護士)

1. はじめに

昨年12月、ヨハネスブルグで開催されたINC 5において、残留性有機汚染 (POPs) 廃絶を目ざす国際条約案について各国の合意が成立しました。条約案は、本年5月にストックホルムで開催される外交会議で正式に採択される予定です。

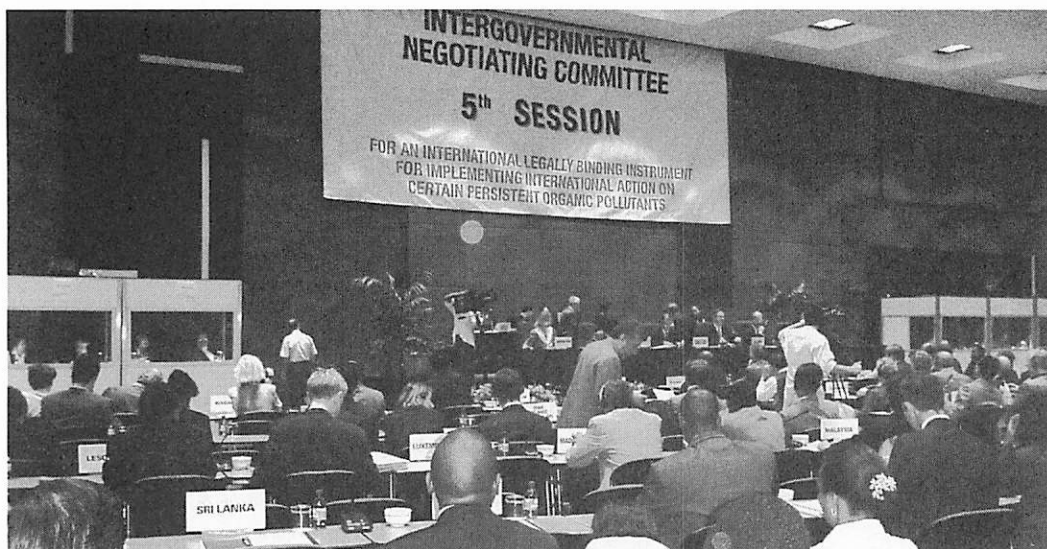
この条約は、人の健康保持と生態系の保全という観点から科学物質を規制した初めての条約です。POPsのほとんどが20世紀に発明され、環境中に放出されたもので、いわば「20世紀の負の遺産」のひとつ。20世紀の最後に、世界の国々がその廃絶を決めたということは、やや遅きに過ぎたとの感は否めないものの、やはり意義深いことです。

国民会議からは、INC 3、INC 4 に引き続き、今回のINC 5 にもNGOとして参加しました。「POPs廃絶

日本ネットワーク」(JPEN)として、世界のNGOとも協力し合い、三次にわたって日本政府に提言書を提出したほか、会議の傍聴、政府代表との意見交換、さらには女性グループによるデモンストレーションへの参加(表紙の写真)など、さまざまな活動を行いました。こうしたNGOのロビー活動が効を奏して、条約案の内容もかなり評価できるものになりました。

今後、大切なことは、条約の内容を確実に実施すること、そして、21世紀のできるだけ早期にPOPsを実際に廃絶すること、さらに同じ誤ちを繰り返さないために、予防原則に基づいた対策を迅速に実現していくことだと思います。そのために、国民会議が果たすべき役割は大きいと思います。

そこで、本稿では、条約案の概要を解説するとともに、条約に伴ってわが国ではどのような課題が生じるかについて考えてみます。(紙数の都合でNGO



INC 5の会議の様子

の活動の詳細は報告できませんが、是非JPENニューズレター3号をご覧下さい。また、国民会議ニューズレター4号、5号、8号もご参照下さい

2. 条約案の概要

・対象物質

POPsとは、①残留性（難分解性）、②生体濃縮性（蓄積性）、③長距離移動性、④人や生態系に対する毒性、を有する化学物質です。その性質から地球規模の汚染（特に、極地方に住む先住民やアザラシなどへの高濃度の蓄積）をもたらしています。また最近では、環境ホルモン作用によって、次世代に重大な悪影響を及ぼすことが判明しています。

今回の条約では、まず表1の12物質が対象とされます。しかし、規制物質の追加が予定されており、その決定基準と手続きに関する条項も含まれています。

・規制の内容

条約は、①製造・使用を原則的に禁止、②製造・使用を制限、③排出削減の三つの規制方法を定めています。それぞれの対象物質は表2のとおりです。マラリア対策目的でのDDTの製造・使用以外は、原則的に製造・使用が禁止されます。但し、PCBの継続的使用や国別の適用除外、試験研究目的等の一般適用除外が認められています。

・PCBの使用停止・処理の目標年限等

PCB含有機器については、2025年までに使用停止、2028年までに処理、という暫定的目標年限が定められました（締約国会議（COP）で見直されます）。

使用停止までの間、PCB含有機器の特定、表示を

行うことや高濃度含有機器から優先的に使用停止することなどが定められています。また、食品・飼料の生産加工場所での使用禁止や、人口密集地域での使用の場合の危険防止措置の義務づけなど、使用にあたってのリスク低減措置も盛り込まれました。

・非意図的物質の排出削減

ダイオキシン類などの非意図的物質については、可能な限り最終的な廃絶（排出ゼロ）を目指して、排出量を継続的に最小化することが明記されました。そのために、排出インベントリーの作成、削減のための戦略の策定とモニタリング、教育訓練、実施スケジュールなどの内容を含む行動計画を2年以内に立案、実施することとされています。

また、ダイオキシン類を発生させないような代替素材や代替生産工程の開発の促進や、利用可能な最善の技術及び方法（Best available techniques :BAT）・環境上最善の実践（Best environment practice :BEP）の促進などが定められています。ダイオキシンの生成や排出を防止する方策の方が、単なる排出削減策よりも優先されるべきであることも明記されています。

表1 対象12物質の分類と主な用途、毒性（環境庁などの資料による）

分類	物質名	慢性毒性	主な用途
製造・使用禁止	アルドリノ	発がん性、発育異常	殺虫剤
	ディルドリン	発がん性、妊娠異常	
	エンドリン	肝臓障害	
	クロルデン	発育異常	白アリ駆除剤
	ヘプタクロル	発がん性、発育異常	
	トキサフェン	発がん性、発育異常	殺虫剤
	マイレックス	発がん性、精巣障害	
	ヘキサクロロベンゼン	発育異常	殺菌剤
制限使用	PCB	生殖毒性、発がん性	絶縁剤、工業製品
	DDT	内分泌異常、発がん性	農薬、マラリア駆除
削減・排出	ダイオキシン類	生殖毒性、発がん性	焼却炉などから
	フラン類	生殖毒性、発がん性	非意図的生成物質

表2 規制内容と対象物質

規制の内容	対象物質	備 考
①製造・使用を禁止	アルドリン、クロルデン、デイルドリン、エンドリン、ヘプタクロル、ヘキサクロロベンゼン、マイレックス、トキサフェン、PCB	・PCBの継続使用を認める ・国別の適用除外あり ・試験研究目的、副生成物、使用中のもの、中間体などの一般的適用除外あり
②製造・使用を制限	DDT (マラリア対策目的のみ)	・WHOのDDT使用に関する勧告、ガイドラインを遵守すること ・3年ごとに使用量、使用状況等の報告義務 ・3年ごとにCOPで必要性の見直し ・一般的適用除外あり (①と同じ)
③排出削減	ダイオキシン類 (PCDD/PCDF) ヘキサクロロベンゼン PCB (非意図的生成物質)	・2年以内に排出インベントリーの作成、削減のための戦略等を含む「行動計画」を策定、実施 ・代替素材や代替生産工程の開発促進 ・BAT、BEPの促進

せん。またPCB廃棄物の処理はほとんど進んでおらず、その保管管理の杜撰さが度々指摘されています。先日も八王子市の小学校で天井の照明器具が落下し、児童が器具に含まれていたPCB油を頭に浴びるという事故が発生しました。条約上の目標

・POPs在庫・廃棄物の適正処理

条約は、POPsの製造・使用規制のみならず、その在庫や廃棄物を特定し、管理し、環境上適正に管理・処理（原則として分解）することも定めています。

また、POPsで汚染された場所（サイト）を特定する努力義務も定められました。

・新規POPs追加手続き

新たな物質の追加を予定して、POPsの4つの特質（残留性、生体濃縮性、長距離移動性、毒性）に関する判断基準、及び、リスクプロファイル、リスク・マネジメントなどの手続きが定められています。予防的アプローチ（科学的な確実性の欠如が手続きの進行を妨げる理由とされてはならないこと）をとることが随所に明記されています。

・条約の発効

条約は50か国の加入によって発効します。

3. 日本の課題

今回の条約は、途上国も加入できるよう、厳格な義務を課すのではなく、できるだけ各国の自主性を尊重する内容となっています。先進国のわが国としては、条約の義務の存否にかかわらず、条約の精神を率先して実践するという姿勢が求められていると思います。以下、具体的課題を指摘してみます。

・PCB機器の早期使用停止とPCB廃棄物処理の促進

わが国では、PCBは既に1972年から製造中止となっていますが、今なお使用中の機器も少なくありま

年次（2025年、2028年）にかかわらず、わが国ではもっと早期に使用停止・処理完了を目ざすべきです。そのための立法措置が必要となります。

・POPs在庫・廃棄物の適正処理

わが国では、DDTなどの農薬については、既に製造・使用は禁止されていますが、その後の回収措置や適正処理を定める法律がありません。このため、在庫量や処分方法についてその実態さえ把握されていません。中には、ビニール袋で包んだだけで土中に埋没されたものもあると言われており、環境汚染が懸念されています。条約の要請を満たすためにも、早急にこれら登録失効農薬の実態把握と適正処理を進めることが必要です。そのための法律改正が求められます。

・その他

最近、市街地のPCB汚染が報告されており、自治体では特別条例を制定する動きが見られます。国レベルでも、「土壌汚染防止法」を制定し、汚染レベルの基準設定及び浄化対策に取り組む必要があります。

このほか、予防的アプローチを用いて、12物質以外にも新規に規制を講じること、生体毒性の観点から現行法制を見直すこと、さらには、途上国（特にアジアの国々）への技術・資金援助をすすめることなど、多くの課題があります。

国民会議としても、これらの課題を解決するための政策提言に取り組むことが求められています。

環境関係法令などの資料入手先 及び入手方法

環境関係法令について調査する場合、書籍を読んだり、勉強会に出席するのも良い方法ですが、より早く、より生の情報を入手しようとするならば、法令を制定している現場にアクセスすることでしょう。今回は、資料入手先と入手方法についてご案内します。

1. 主な環境関連法律と所轄の官庁の一覧

※所轄に関しては、他省庁と共管の場合もあり、主という趣旨です。順不同。

環境基本法・基本計画	環境省
循環型社会形成推進基本法	環境省
リサイクル法（再生資源の利用の促進に関する法律）	経済産業省
容器包装リサイクル法（容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律）	経済産業省
家電リサイクル法（特定家庭用機器再商品化法）	経済産業省
建設リサイクル法（建設工事に係る資材の再商品化等に関する法律）	国土交通省
食品リサイクル法（食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律）	農林水産省
廃棄物処理法又は廃掃法（廃棄物の処理及び清掃に関する法律）	環境省
化審法（化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律）	経済産業省
PRTR法（特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律）	経済産業省
有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律	環境省
大防法（大気汚染防止法）	環境省
水濁法（水濁汚染防止法）	環境省
農薬取締法	農林水産省
食品衛生法	厚生労働省
肥料取締法	農林水産省
労安法（労働安全衛生法）	厚生労働省
情報公開法（行政機関の保有する情報の公開に関する法律）	経済産業省
ダイオキシン法（ダイオキシン類対策特別措置法）	環境省

2. 資料収集、意見提出のノウハウ

1 法律や規制の条文

インターネットを利用して以下のアドレスにアクセスすることで入手できます。

衆議院	http://www.shugiin.go.jp
環境省	http://www.env.go.jp
農林水産省	http://www.maff.go.jp
国土交通省	http://www.mlit.go.jp
厚生労働省	http://www.mhlw.go.jp
経済産業省	http://www.meti.go.jp

衆議院のHPでは、制定された会期を指定する必要があります、又省によっては、きちんと検索

のシステムが整えられていないこともあり、使い勝手は100%ではありませんが、かなりの速度で改善されています。

2 当該法律の制定経過や運用など詳しい背景事情

上記官庁のHPにアクセスし、審議会の議事録の閲覧などを行うことで詳しい情報を入手できます。

但し、実際の審議会で配布される添付資料（図表）などはHP上に掲載されていないことも多く、これらの資料を入手しようとする場合は、それぞれの官庁に実際に足を運ばなければなり

ません。各官庁を訪れる場合は、前もって当該法律の所轄の課ないし局を、HP上で調べてから出向く方が効率的です。

3 パブリックコメントの提出

国民の重大関心事であると思われる法律の制定にあたっては、所轄の省庁がパブリックコメントを募集することが多々あります。募集の内容、時期、意見の提出の方法（それ以外にも告

知方法があるとは思いますが、少なくとも）が、上記HP上で告知されるので、情報の収集だけではあきたらない方は、ぜひ国政に意見を反映させるべくチャレンジして下さい。

パブリックコメントは、各政党が募集することもあります。その場合は、政党のHPで情報が入手できるので、各政党のHPをチェックすることになります。

「毒物のない社会」委員会の設置について

国民会議常任幹事 藤原 寿和

1. 設置の経緯と目的について

昨年11月15日に開催されました第28回常任幹事会において、現在、国民会議のもとに設置されている専門委員会の一つの廃棄物対策委員会を改組し、表記の委員会を設置することが決まりました。「毒物のない社会」をめざすことは、もとより国民会議の基本的な活動目的であります。これまで廃棄物対策委員会で取組の目的としてきました廃棄物における有害化学物質対策を含めて、その上流側の資源（採掘）から素材、製品の製造・加工・流通・消費・廃棄に至る全プロセスにおける有害化学物質（一般向けにはわかりやすく「毒物」と表記）対策について、政策提言を行うことを目的とします。

2. 委員の募集と当面の取組課題（テーマ）について

この委員会が当面取り組む課題については、昨年12月に開催された第1回委員会から検討していますが、広く会員の皆さんから取り組みたいあるいは取り組むべき課題について、募集したいと思います。

3. 委員会の構成・役割とワーキング・チームの設置について

先の常任幹事会において、委員会の委員長に当面は藤原常任幹事が当たることになりました。専門委員会としての役割は、前述のように政策提言を行うことを目的としますが、その政策提言を取りまとめるための作業については、委員会のもとに政策提言を行うための作業に必要なワーキング・チーム（現行のプロジェクト・チーム）を設置し、専門委員会

とワーキング・チームが有機的に連動しながらまとめ上げていくことを考えています。

4. 当面の優先課題（テーマ）案について

現在、一般の国民が一番知りたいと思っていることは、毎日の食生活や住生活、子育て等のなかで、何が毒物であり、何が安全な製品なのか、自分自身の毒物を回避する生き方だけでなく、次世代の子どもたちが安全にかつ健康に過せるためには親として、社会としてどのような仕組みを創ればよいのかなどの点ではないかと思います。

1992年に開催された地球サミットで採択されたアジェンダ21や、1997年にマイアミで開催された8カ国環境大臣会合において、とくに有害化学物質に対して感受性の強い子どもたちのいのちと健康を有害化学物質から守るための政策、とくに環境教育等の必要性が強調されています。

そこで、あらたに設置する本委員会が優先的に取り組むべき課題（テーマ）として、日々の生活に直結する各種製品（素材も含む）の購入・使用段階での有害化学物質をめぐる問題とその解決策、なかでも子どもたちのいのちと健康をめぐる諸問題について、家族や学校現場等で取り組むべき課題（テーマ）を選定してはどうかと思います。

この課題については、国民会議が行った素材対策についての提言を具体化するための取組の一環として位置づけられるとおもいます。

◎「ダイオキシン法の実態と課題」公開学習会

公開学習会：「ダイオキシン法の実態と今後の課題 自治体担当者から」

○日 時：2月9日（金）午後6時～8時

○場 所：弁護士会館10階会議室

○講 師：東京都、神奈川県、埼玉県の各担当者

◎「ダイオキシン特措法の施行から1年」公開学習会

2000年1月15日にダイオキシン類対策特別措置法が施行されてから1年が経ちます。この間、法律はどのように運用されてきたのか、また、今後の課題はなにか、とくに、法律に盛り込まれなかった食品汚染対策や素材対策などの取り組みや、臭素化ダイオキシン類に対する対策をどう進めるのかなどについて、新たに発足した環境省のダイオキシン対策官からお話をうかがいたいと思います。ふるってご参加下さい。

○日 時：2月19日（月）PM6：00～8：00

○場 所：池袋・エポック10 多目的ホール（メトロポリタンプラザ10F）
TEL 03-5954-1015

○講 師：今田 長英さん（環境省環境管理局ダイオキシン対策官）

○参加費：500円

○後 援：豊島・健康と環境を守る連絡会

◎8号の訂正とお詫び

8号の以下の箇所に間違いがありました。お詫びして訂正します。

（1）1ページコンテンツの「中下祐子」を「中下裕子」に

（2）3ページ左側下から3行目「環境基準（1pg）を越えたものが10地点である。」の挿入場所が誤っていて、正しくは同じく3ページ右側上から6行目の「0.24pgである。環境基準（1pg）を越えたものが10地点である。しかし……」となります。

（3）13ページの「ダイオキシン委員会からのお知らせ」の執筆者・藤原「邦達」を藤原「寿和」に

編集後記

広報委員会委員長 佐和洋亮

環境ホルモンなどの有害物は、科学技術の発達の過程で発生したものであり、人間が自ら生み出したものである。人間はすばらしく、また、愚かでもある。

ある自然環境を守る裁判の中で、野生のトラ（地球上で5000頭しかいない）を守る運動を続けている坂元雅行弁護士が書かれた以下の文章（抜粋）を引用して編集後記に代えさせていただく。

◇

生物は、それと関連をもつ外界やそこに存在する事物、すなわち環境との相互関係の下で生存し生活している。この点は人間にも当てはまる。人間もヒトという生物としての側面をもっているからである。

人間による自然の人為化が進むと、自然を基盤とした人間社会が生まれ、さらに人為化が徹底するとそこに人工の世界が生まれる。それが都市である。都市は人工物質と複雑な社会システムから構成される。

都市社会の発展ないし人工化の進行と人

間の内なる自然との矛盾は加速度的に深まり、生物としてのヒトの面（内なる自然）への無意識的な抑圧は激化する。この抑圧は、身体的にもそうであるが、特に精神的な面で深刻な結果を引き起こす。アレルギー（アトピー）、ストレス、精神的な偏重、突発的な心の暴発などといった「心の問題」である。社会問題として認識されているいわゆる「疎外」や少年犯罪の問題の根はここにある。

その一方、過度の人工化が進行する結果、都市社会と、もともとその基盤にある外なる自然（物質世界としての自然環境）との間の矛盾が激化した結果が、いわゆる環境問題である。

心の問題と環境問題は、都市社会の発展のあり方（究極的には人間の存在様式）に同一の根を持つのである。都市社会の発展のあり方が引き起こした矛盾の、人間の精神的環境、物質的環境それぞれにおいてあらわれた現象といってもよい。

ダイオキシン・環境ホルモン対策
国民会議 提言と実行
ニュースレター 第9号

2001年1月発行

定価 105円（送料別）

発行所

〒105-0004
東京都港区新橋4-25-6
ヤスキビル2-6F

コスモス法律事務所内
ダイオキシン・環境ホルモン対策
国民会議事務局

TEL 03-3432-1490

FAX 03-3432-1490

編集協力・レイアウト

祐総合工房キャップ

*国民会議事務局のE-mailアドレスは、kokumin@attglobal.net です。

HPは、<http://www.kokumin-kaigi.org>